

火の用心



秋の火災予防運動

令和7年11月9日から15日まで

11月に急増する暖房器具の事故にご注意を！



暖房器具による事故

- ・発生状況：昨年までの5年間で596件の事故が発生しています。
- ・発生時期：月別で見ると、**11月に急増**し、12月にピークを迎えた後、翌年4月まで多い状態が続く傾向があります。
- ・主な器具：事故全体の8割以上を**石油暖房器具**と**電気暖房器具**が占めています。リコール対象製品の事故も多く、断線による発火など多い状況です。

【リコール情報確認のお願い】

リコール製品は重大な事故につながる可能性があります。
消費者庁やメーカーのウェブサイトで、お使いの製品がリコール対象になっていないか確認をお願いいたします。

経済産業省 電気ストーブ リコール情報 → → →



石油暖房器具のチェックポイント

事故原因として多い事例	確認・対策事項
給油口からの灯油漏れによる引火	給油口のキャップがしっかり閉まっているか確認。給油時はこぼさないよう注意。
ガソリンの誤給油	携行缶やポリタンクの表示を確認し、絶対に間違っ て給油しない。
可燃物の接触・接近	燃えやすいものをストーブの近くに置かない。給油後 も機器が熱いうちは注油口付近に灯油が付着して いないか確認。
異常燃焼（炎の逆流など）	空気取り込み口にホコリがたまっていないか確認し、 こまめに掃除をする。
経年劣化	古い灯油の処分（必ずガソリンスタンド等に相 談）。地震時の自動消火装置が作動するかの点 検。



電気暖房器具のチェックポイント



事故原因として多い事例	確認・対策事項
電気コードの損傷・発火	電気コードやプラグに破損、断線、焦げがないか。 重い家具などでコードを挟んでいないか。
リコール対象製品による事故	製品名や型番を確認し、リコール情報を必ず確認 する。
転倒時の安全装置の不備	転倒時に電源がオフになる安全装置が正常に作動 するか点検。
過負荷による発熱・発火	暖房器具は消費電力が大きいので、延長コードや タコ足配線は極力避け、壁のコンセントに直接挿 す。使用する場合は許容電流を厳守。

**去年問題がなかったから大丈夫という思い込みは事故の元。
シーズン初めや日々の点検で冬を安全に過ごしましょう！**